

トルコ リンゴは輸出見通しが弱い中で生産量が40%減少

[FreshPlaza 2025年11月21日](#)

トルコの2025/26年度のリンゴの生産量は、シーズンこれまでの悪天候の影響で前年比約40%減と推定されている。霜害により原料の供給量が減少して価格が上昇し、加工業者には厳しい状況となっている。

生産量が少ないため、リンゴは貿易省による出荷申請の承認が必要な政府の輸出登録対象品目に追加されたと伝えられている。しかし市場関係者はエクスパナ社(市場分析会社)に対し、政府の措置に関わらず業界の輸出見通しが弱いと示唆している。今シーズン、トルコは主要市場で価格的に苦戦すると予想されている。

主要な競争相手であるポーランドは、生産量の増加を記録する可能性が高い。公式な数字はまだ発表されていないが、一部の業界推計ではポーランドの生産量は昨年の約300万トンから増加し、400万トンを超えると見られる。その結果、ポーランド産の価格は下落傾向にある。ある情報筋はエクスパナ社に対し、輸入関税にもかかわらず競争力のある価格で米国市場に提供されている低価格のポーランド産リンゴや中国産を例に挙げ、トルコには「競争の余地がない」と述べた。

10月のエクスパナ社ベンチマーク価格によれば、トルコ産濃縮リンゴ果汁(低酸度、ヨーロッパ域内渡し)は1トン当たり2,150ユーロで、前月比10.3%上昇した。一方、ポーランド産濃縮リンゴ果汁(中酸度、ヨーロッパ域内渡し)は1トン当たり1,750ユーロで、前月比では5.4%、前年比では30%低下した。

一部の業界関係者は、小玉や2級品のリンゴに対するインドの需要が潜在的な出荷先を提供するかも知れないと述べ、紅海航路再開後の貨物運賃の低下と輸送時間の短縮がこの取引を支える可能性があると指摘した。市場の姿勢は依然として慎重であり、ある情報筋は今シーズンを「完全な失望」と表現している。

出典: Mintec/Expana

南アフリカ アジアでの柑橘類アクセスの拡大を目指す

[FreshPlaza 2025年11月21日](#)

南アフリカの柑橘類輸出業者はアジア市場での存在感を拡大し続けている。2024年にベトナムとの二国間プロトコルにより南アフリカ産オレンジの市場開放が実現した後、同国への輸出が急速に増加した。初年度には5万3,311箱(15kg/箱)がベトナムに出荷され、2025年には20万9,569箱に増加した。

複数の業界団体は、この成長はアジア全域のより広範なチャンスを反映していると指摘する。ベトナム以外では、日本、韓国、インド、中国等の市場が南アフリカ産柑橘類にとって有望視されている。南部アフリカ地域は2025年に世界に2億3百万箱以上の柑橘類を輸出し、そのうち南アフリカが約1億9,300万箱を占めた。業界は、アドー、パテンシー、グロブレルダール、レツィテレ、シトラスダール等の産地における農村雇用を支えるため、依然として国外からの収入に依存している。

ベトナムで台頭する中間層は青果物の需要を高めており、南アフリカ産オレンジは6~10月の期間の供給に適している。輸出業者は、植物衛生要件の遵守と物流の改善が市場アクセスを支えていると報告している。業界関係者は次の段階として、マンダリン等オレンジ以外の柑橘類のアクセス拡大を挙げている。2025年のマンダリンのシーズンには5,350万箱が輸出用に梱包され、前年比28%増となった。関係者らは、ベトナムのような有望な市場において他の柑橘類品目のアクセスを確保する必要性が高まったとしている。

最近のラマポーザ大統領のベトナム国賓訪問では、南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)及び柑橘類研究機関(Citrus Research International)が参加した。南アフリカの閣僚らはベトナム側と会談し、追加の柑橘類の市場アクセス拡大を推進し、未解決の貿易条件について協議した。南アフリカは他の地域での保護関税による影響を軽減するため市場の多様化を進めており、ベトナムは優先市場の1つと位置付けられている。

業界の代表者らは、アジアの需要拡大が南アフリカの増加する供給量を吸収し、柑橘類産地における雇用を支える一助となる可能性があると述べている。ベトナムの消費者が輸入オレンジの購入を続ける中、業界はマンダリン及びその他の柑橘類のプロトコルに関する継続的な協議に期待している。

出典: AfricanFarming